

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	16-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
A National Swedish Twin-Sibling Study of Alcohol Use Disorders. アルコール障害の影響要因について双生児研究による検討		
執筆者		
Kendler KS, PirouziFard M, Lönn S, Edwards AC, Maes HH, Lichtenstein P, Sundquist J, Sundquist K.		
掲載誌		
Twin Res Hum Genet. 2016 Oct;19(5):430-7. doi: 10.1017/thg.2016.62.		
キーワード		PMID
アルコール障害 双生児研究		27515133
要 旨		
目的： アルコール性の健康障害についての遺伝的要因、環境要因の影響を双生児研究において明かにする。		
方法： National Swedish Twin-Sibling Study (男男・男女・女女,一卵性/二卵性双生児,5歳差以内の兄弟姉妹 787,916組)を対象にして、構造方程式モデリングによりアルコール性の健康障害と遺伝的要因、環境要因の関連を検討した。		
結果： 遺伝的要因は 70-92%、環境要因は 63%-98%、アルコール性の健康障害の存在を説明した。犯罪歴は遺伝的要因および環境要因の中で最も強くアルコール性の健康障害と関連していた。遺伝的要因および共通環境要因を含めた遺伝性は女性 22%、男性 57%、アルコール性の健康障害の存在を説明したが、アルコール性の健康障害は、女性は遺伝的要因と共通環境要因の両者を併せ持つ場合は 12%、共通環境要因のみの場合は 29%であるのに対して、男性はそれぞれ 6%、2%であり、女性は男性と比較して共通する環境要因の影響がより重要であった。		
結論： アルコール性の健康障害の要因には性差が認められ、女性は男性と比較して、共通する環境要因の影響が強く、遺伝的要因の影響が弱いことが明かとなった。		